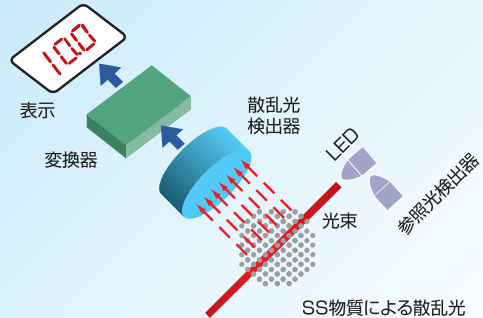


近赤外90°散乱光測定 高感度SS/濁度センサー

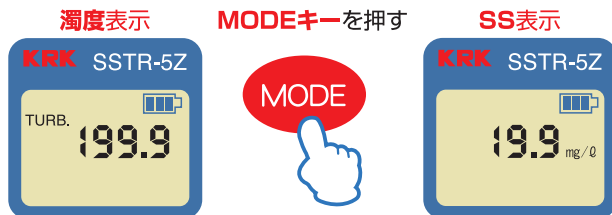


最大級面積200mm<sup>2</sup>以上の受光素子で高感度SS検出、又、近赤外LED、可視光カットフィルター付で外部光や着色の影響をカット、ノイズに強く安定した測定を保証。



SS濃度と濁度の切替測定

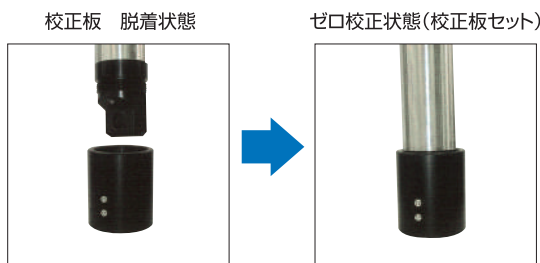
SS(浮遊物質)濃度と濁度を選択測定できます。



排水の浮遊物質(SS=Suspended Solid)と散乱光濁度は一定の相関関係があります。本器はSSと散乱光濁度との相関係数 $y=a+bx$ を求めてこの係数を設定することで濁度がSS濃度に換算されてSSモードでSSを、濁度モードに切換えると濁度をそれぞれ高感度で測定できます。

簡易ゼロ校正板 標準付属、ゼロ校正が簡単

第二ゼロ標準の簡易ゼロ校正板使用でゼロ校正水が無用(第一ゼロ標準は純水を使用します)



SSと濁度の相関係数  $y=a+bx$  演算機能付SS計

手分析法で求めた検水のSSと濁度の相関係数をMODEキー、△▽キー操作で設定可能

検水のSS濃度値に1点又は2点校正も可能

手分析後の検水のSS濃度値にスパン校正も可能

▲ 実際の試料水の濁度物質の色や粒子の大小、密度によっては測定方式の差で他の方式の濁度計と測定値が一致しない場合がありますが異常ではありません。

仕様

品名	SS/濁度センサー
型式	SSTR-5Z
測定範囲	濁度:0~500NTU(標準) SS:0~500mg/l(換算値) (SSと濁度の関係が1:1以外の場合はSSの測定範囲は変わります) ※ご指定:FS:0~1000又は0~20
最小表示	0.1/0~100の範囲で(NTU又はSSmg/l) 1/100~500の範囲で(NTU又はSSmg/l) フルスケール 1000の場合:1mg/l フルスケール 20の場合:0.01mg/l
再現性	±2%FS以内(一定条件下)
SS換算機能	SS換算係数( $y=a+bx$ )( $x$ =濁度、 $y$ =SS)の設定が可能
ゼロ校正	第一標準:純水 第二標準:簡易ゼロ校正板
スパン校正	1:フォルマジン濁度標準液で校正後SS換算係数設定 2:直接SS校正:手分析後のサンプル水のSS濃度に1点又は2点校正
周囲温度範囲	0~40℃
電源	単4アルカリ乾電池(LR03×3本) オートパワーオフ機能(使用しない状態で30分後)
標準構成	計器本体(乾電池付)、検出器(ケーブル6m付)、簡易ゼロ校正板 ビニールカバー、ストラップ、取扱説明書、携行ケース

検出器仕様

型式	TRD-120Z
測定原理	近赤外90°散乱光測定方式
検水温度範囲	5~40℃、溶剤、強酸化物の共存不可
接液部材質	PVC、硬質ガラス、SUS-304
ケーブル長	6m標準
重量	約500g(ケーブル別)
標準外付属品	濁度標準液(第一標準:ホルマジン溶液 250ml) 測定/校正容器(PVC)

TECHNICAL INFORMATION

SSとは?	Suspended Solidの略、水中の浮遊物質の意味
SSの手分析測定方法	ガラスファイバー濾紙法 検水を吸引濾過→濾紙乾燥→放冷約30分→計算 (濾過器に濾紙をセットして)(105℃ 2時間)(デシケーターで) 計算式 $SS(mg/l) = b - a \times \frac{1000}{\text{検水量}(ml)}$ b=乾燥後の濾紙の重量 a=乾燥前の濾紙の重量 ※SSの手分析法の作業は約3時間程の時間を要します。
相関式 $y=a+bx$ の求め方	10~20本の試料水のSSと濁度を測定し、計算で相関式 $y=a+bx$ を求める。 試料水は1日約3回(朝昼晩)、1週間程度の期間で採取、測定します。